

4. Корнилов О.А. Языковые картины мира как производные национальных менталитетов. – М.: ЧеРо, 2003. – 349 с.
5. Радченко О.А. Язык как мирозидание: Лингвофилософская концепция неогумбольтианства. – М.: КомКнига, 2006. – 312 с. (История лингвофилософской мысли).
6. Стрижак У.П. Составление тезауруса как один из путей расширения словарно-иерогл. запаса учащихся // Вестник МГПУ. Сер. «Филология. Теория языка. Языковое образование». – 2009. – № 1 (3). – С.90-94.
7. Щерба Л.В. Преподавание языков в школе: общие вопросы методики. – 3-е изд., испр. и доп. – СПб.: Филологический факультет СПбГУ; М.: Издательский центр «Академия», 2003. – 160 с.
8. Gurevich T. Similar features of national mentalities as a foundation for successful intercultural communication. International conference «Japan Phenomenon: views from Europe». – M., 2001.– P. 154-158.

*U.Stryzhak, PhD, Associate professor,  
Moscow City Teachers' Training University*

## **JAPANESE LINGUISTIC PICTURE OF THE WORLD IN THE PERSPECTIVE BEFORE TRANSLATION**

*The article deals with the problem related to the students' understanding of the basic features of the Japanese linguistic picture of the world. Based on the examples of the translation tasks from the various fiction texts the analysis of lexical and grammatical categorization has been provided.*

**Key words:** *linguistic picture of the world, lexical and grammatical categorization, translation task.*

*Шіманда Со*  
Львівський національний університет імені Івана Франка

### **応用言語学における翻訳の理論と実践 (Теорія і практика перекладу в прикладній лінгвістиці)**

キーワード: 翻訳学、応用言語学、等価性、マクロ文脈、文脈の適合化

*Метою даного дослідження є: 1) порівняльний аналіз різних концепцій перекладознавства, наприклад, «еквівалентність», «макроконтекст», «контекстуалізація» з точки зору прикладної лінгвістики, 2) перевірка теоретичної обґрунтованості цих понять відповідно до аналізу деяких конкретних випадків перекладу. По-перше, ми обговоримо різні визначення, позиції та оцінки теорії перекладознавства в області прикладної лінгвістики і міжкультурної комунікації. У той же час, деякі приклади з практики перекладу буде*

представлено як об'єкти аналізу на основі цих понять перекладознавчих. На закінчення, я вважаю, що роль, потенціал і межа перекладу і транслатології в прикладній лінгвістиці.

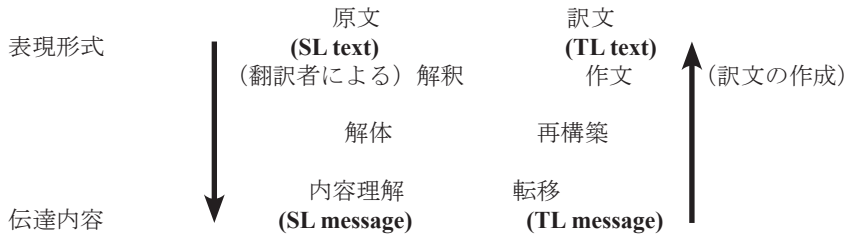
**Ключові слова:** перекладознавство, прикладна лінгвістика, еквівалентність, макро-контекст, контекстуалізація.

## 0. はじめに

本稿の目的は、翻訳学の様々な概念を、具体的な翻訳例を分析しながら応用言語学の観点から考察し、その理論的妥当性を検証することにある。最初に「翻訳」の定義と翻訳過程、「翻訳学」理論の定義とその基礎概念を概観する。次に、これらの概念を援用して外国語から日本語への翻訳の3つの例を分析する。具体的な分析対象は1) 実用的テキストとしての英語広告文の和訳、2) 文学テキストとしてのウクライナ語戯曲の和訳、2)文学テキストとしてのドイツ語詩の和訳と三重訳及び漢詩の和訳である。結論に際して、応用言語学における「翻訳」の位置付け、可能性と限界について考察したい。

## 1. 「翻訳」と「翻訳学」の定義

我々の日常生活では、しばしばプロトタイプやステレオタイプとしての身近な「翻訳」が連想される。例えばそれは翻訳行為の結果としての外国語・日本語文学作品の「翻訳」であったり、日本語教育における補助的役割としての広義の「翻訳」であったりする。それに対し、言語学的観点からの「翻訳」・「翻訳学」はこれまで日本では十分に研究されてきたとは言い難い。本項では、特に言語学的観点からの「翻訳」・「翻訳学」の定義を概観する。まず「翻訳」の定義であるが、狭義の「翻訳」概念と広義の「翻訳」概念が見られる。狭義の「翻訳」概念には、「1つの言語で表現されたことを異なった言語に訳す行為...「書かれた文章」を訳すこと」(鳥飼玖美子 『日本語教育学辞典』2005: 611)、「文章に盛られた伝達内容(message)を言語の壁を「越えて(向こう側に)運ぶ(carry over)」こと」(成瀬武史 『応用言語学事典』2003: 403)、「Translationの書かれたテキストの形式であり、そこでは起点言語テキストと目標言語テキストが同時に全体として、かつ部分的に存在しており、翻訳者に使用可能である」(Назаркевич 2010: 282)等の定義がある。これらに共通している点は、書かれた文章・テキストを対象とし、「話されたことば」を対象とする「通訳」の対と見なされていることである。これに対し、広義の「翻訳」概念では、U.カウツの定義「言語の異なるパートナー間での異文化間言語コミュニケーションの枠内での複合的な、機能的に規定された、計画的な、かつ創造的な行為」(Ulrich Kautz 2002:642)に見られるように翻訳対象を「書かれたテキスト」に限定しない。或いは、上位概念としてのTranslationを規定する場合もある。「Translationは翻訳と通訳の上位概念である。」(Назаркевич 2010: 282) 翻訳は更に翻訳の過程(trasnlating)とその過程の結果(product of translation)とに区別される。(Назаркевич 2010: 16) 翻訳過程は、翻訳者(読者・解釈者及び訳文作成者)と起点言語(source language: SL)「翻訳対象となるテキストの表現に使われている言語」、目標言語(target language: TL)「翻訳に使われる言語」との間のコミュニケーション行為として成立する。広義の翻訳過程には起点言語テキストの作者も含まれるが、ここでは狭義の翻訳過程に限定する。



(成瀬 2003: 409 「起点言語と目標言語」 図1に筆者加筆)

翻訳は歴史上常にその実践が先行してきたため、「翻訳学」の名称、定義は多様である。現代翻訳学の方法論は、1960年代に聖書文献学者Eugen Nidaの著書“*Toward a Science of Translating*”(1964)によって確立されたと言われている。日本では「翻訳論」という名称がよく使われる。鳥飼は「翻訳論は、言語学の範疇ではなく、語用論、および異文化コミュニケーションにかかわる分野」(鳥飼玖美子 2005: 611)とするが、成瀬(2003)は、『応用言語学事典』の中でGutt(1991)の翻訳理論の例を挙げ、近年の「心理学、言語学、伝達理論、人類学、記号論を含む多くの学問分野の上に成り立つ」(成瀬 2003: 376)「翻訳学」の学際性を強調している。翻訳研究は、「社会科学と人文科学の要素を含む学際研究であり、翻訳、通訳の理論、記述、応用の体系的な研究を扱う」(Wikipedia: Translation studies)とされる。また、Назаркевич (2010)は「翻訳学」の課題として以下の5点1)「コミュニケーション過程の分析」、2)「翻訳・通訳過程の理解の改善」、3)「翻訳行為の最適化」、4)「翻訳能力の質の判断基準の発展」、5)「翻訳・通訳能力の訓練と教材化」(Назаркевич 2010: 19)を挙げている。

## 2. 「翻訳学」の基礎概念

本項では、次項の翻訳分析の前提として、分析に援用される「翻訳学」の基礎概念について概観する。まず「等価」(equivalence)の定義であるが、成瀬(2003)は「原文の読者がその原文から受ける理解内容と翻訳読者がその原文から受け取る理解内容の等しさ」(成瀬 2003: 409「等価性」)とする。「理解内容」は、「表現で意図されている情報(information < matter)と...その表現の様式が読者の心に喚起する印象(impression < manner)から」(成瀬 2003: 409)構成される。情報の内容(実質的等価)と表現の様式(形式的等価)から形成されている等価性の重点は、翻訳対象となるテキスト型(類)に依存する。「法律文書、製品の仕様書・明細書、機械操作のマニュアルなどの産業用文書の翻訳では情報内容の等価に、文学作品、特に韻文(詩歌)の翻訳では表現形式の等価に」(成瀬 2003:409 「等価性」)重点が置かれる。これに対し、Назаркевич(2010)は、「等価性」を「それぞれの文化の同じレベルで同じコミュニケーション機能を果たせる目標テキストと起点テキストとの間の関係」(Назаркевич, 2010: 38-39)として、より抽象的に定義し、更にK.コラー (1992)は等価性を5種類に下位区分する。1) 指示的等価 (denotative equivalence): 起点言語での指示物と目標言語での指示物が1:1対応する。2) 含意的等価 (connotative equivalence): 起点言語の読者と目標言語の読者に、様々なレベル(言語層、社会的に規定された言語使用、言語媒体(話し言葉・書き言葉)、地理的起源、文体的作用、頻度、使用領域、評価)で類似の連想的な二次の意味を引き起こす。3) テキスト規範的等価 (text-normative equivalence): 特にテキスト型に特有の文体規範の保持。伝統的なテキスト型ほど、テキスト型の慣習が文化に特有なものとなる。4) 語

用論的等価 (pragmatic equivalence): 目標言語テキストがその想定される読者に関連付けて翻訳される。5) 形式的・美的等価 (formal-aesthetical equivalence) 文学テキストでは「起点テキストの特定の美的・形式的・個人的な特性」(メタファー、言葉遊び、韻)に関連する。次に、「マクロ文脈」(macrocontext)「文脈の適合化」(contextualization)の二概念であるが、両概念は密接に関連している。「マクロ文脈」は「言語文脈(linguistic context)の背後にあって、発想を促す物理的・心理的状況や発話者が前提にしている文化の台本(cultural script)」(成瀬 2003: 414)を、「文脈の適合化」とは「原文の文化圏で自然に受け入れられている事物や行為が訳文の文化圏では不自然に思える、ないしは反発を招きかねない場合に、その違和感を除くために施す調整」(成瀬 2003: 413)を意味する。即ち背景知としての「文化の台本」(cultural script)に関して、起点言語テキストに配慮する場合はマクロ文脈理解に繋がり、目標言語テキストに配慮する場合は文化の適合化ということになる。

### 3. 範例的翻訳分析

#### 3.1 翻訳分析1: 実用テキストとしての英語広告文の和訳の分析

1. *Make sure automobile engine is warmed up to normal operating temperature.*
  2. *Turn off vehicle.*
  3. *Shake bottle for one minute and ensure bottle is at room temperature so that contents flow freely.*
  4. *Pour contents into engine oil reservoir.*
  5. *Start car and let engine idle for five minutes. Then drive as you normally would.*
1. 自動車のエンジンが通常の作動温度まで暖まっていることを確認してください。
  2. 車両のエンジンを止めてください。
  3. 1分間ボトルを振って、ボトルは中身が自由に流れるように室温であることを確認して下さい。
  4. エンジンオイルのタンクに中身を注いでください。
  5. 車を始動して、5分間 エンジンをアイドリングさせてください。それから、普通にするように運転してください。
- (筆者による和訳)

上記のテキストは、ハリキウの化学会社ТОВ ХАДОの自動車エンジンのメンテナンス用品XADO Highway Atomic Metal Conditioner の英語広告文における商品の使用法とその和訳である。この起点言語および目標言語テキストでは、物理的現象・特性が扱われており、翻訳のタイプは実用的翻訳に分類される。翻訳の際に専ら情報内容の等価に重点が置かれている。指示的等価(denotative equivalence)と、広告宣伝文であるため、消費者を意識した語用論的等価が見られる。実際の製品の使用方法の和訳であるため、特に厳密な意味での1対1対応の指示的等価が特に要請される。また自動車文化は全世界で既にグローバル化しており、背景知である文化の台本(cultural script)としてのマクロ文脈や文脈の適合化はここでは特に問題とならない。

#### 3.2 翻訳分析2: ウクライナ語文学(演劇)テキストの文献学的翻訳

*Старезний, густий, предковичний ліс на Волині. Посеред лісу простора галява з плакучою березою і з великим прастарим дубом. Галява скраю переходить в куп'я та очеретти, а в одному місці в яро-зелену драговину - то береги лісового озера, що утворилося з лісового струмка. Струмок той вибігає з гущавини лісу, впадає в озеро, потім, по другім*

боці озера, знов витікає і губиться в хащах. Саме озеро - тиховоде, вкрите ряскою та лататтям, але з чистим плесом посередині. Містина вся дика, тасмнича, але не по-нура, - повна ніжної, задумливої поліської краси. Провесна. По узліссі і на галяві зеленіє перший ряст і цвітуть проліски та сон-трава. Деревя ще безлисті, але вкриті бростю, що от-от має розкритись. На озері туман то лежить пеленою, то хвилює од вітру, то розривається, одкриваючи блідо-блакитну воду.

ヴォルギーニの非常に古い、密集した太古からの森。森の中央に白樺と大きな非常に古いオーク（樺）のある広々とした空地がある。その空地は突き当りで湿地帯の葎の生えた丘と移っていくが、ある個所で浅緑色の沼地が変わる。それは、森の小川から形成された森の湖畔である。その小川は、森の茂みから流れ出て、湖に流れ込み、それから湖の別の側から再び流れ出て、森の茂みの中に消えていく。その湖は静かな波のない水で、青浮草と水蓮で覆われているが、中心には澄みきった水（流）域を有している。この場所は全て原生で人も住まず、神秘的だが、荒涼とはしていない、即ち優しく瞑想的なポリーシャ（森林地帯）の美しさで満たされている。早春。森のはずれと空地に最初のキケマンが芽を出し、ツルボとオキナグサが花を咲かせている。木にはまだ葉がないが、今にも開こうとしている芽（葉芽や花芽）で覆われている。湖では霧が時にはとぼりて覆い隠したり、時には風に揺れていたたり、時には、淡い空色の湖水を露わにしながら、晴れたりしている。

（筆者による和訳）

この和訳はЛеся Українка «Лісова пісня» レシヤ・ウクラインカの演劇『森の歌』（1911）の典型的な

文献学的翻訳の例である。Волині「ヴォルギーニ」やполіської「ポリーシャ」など、西・北ウクライナに関する固有名詞とそれに関連する語は、翻訳に詳細な注をつける必要がある。また植物名は、しばしばウクライナ語・英語辞典などでは不十分な英訳が与えられている。例えば、рястはРопов, Balla: “Comprehensive Ukrainian-English Dictionary“(2006)では, cowslip（キバナノクリンザクラ、黄花九輪桜 *Primula veris*）とされるが、それはWikipediaではПервоцвіт веснянийという別の花であることがわかる。逆にWikipediaでは、рястはCorydalis「キケマン属の草花」であることが判明する。一般に、ウ英辞典の自然科学用語の記述は信用できない。他方、この意味で「キケマン」はрястの厳密な実質的等価としての指示的等価を持っているが、日本語として形式的・美的等価を有しているか否かは疑問の余地がある。文学テクストの翻訳の際には、当然

「表現形式の等価」にも十分に配慮すべきであるからである。

### 3.3 翻訳分析3: ドイツ語詩と中国語漢詩の和訳

a) *Über allen Gipfeln*

*Ist Ruh,*

*In allen Wipfeln*

*Spürest du*

*Kaum einen Hauch;*

*Die Vögelein schweigen im Walde.*

*Warte nur, balde*

*Ruhest du auch.*

峰々に

憩いあり

梢（こずえ）をわたる

そよ風の

跡も見えず

小鳥は森に黙（もだ）しぬ

待て しばし

汝（なれ）もまた 憩わん

b) <i>Stille ist im Pavillon aus Jade</i>	翡翠の園亭に静寂あり
<i>Krähen fliegen stumm</i>	月明かりに照らされし桜の樹々へと
<i>Zu beschneiten Kirschbäumen im Mondlicht.</i>	烏らは黙し飛翔せん
<i>Ich sitze</i>	我座して
<i>Und weine.</i>	泣きぬれる

([http://de.wikipedia.org/wiki/Wandrer\\_Nachtlied](http://de.wikipedia.org/wiki/Wandrer_Nachtlied); b)は筆者による和訳)

c) 翡翠為樓金作梯、誰人獨宿倚門啼。

夜坐寒燈連曉月、行行淚盡楚關西。

漢文訓読文:

翡翠(ひすい) 楼と為(な)し 金梯(てい)と作すとも  
 誰人(だれひと)か独宿して 門に倚(よ)りて啼(な)く  
 夜泣きて寒燈(かんとう) 曉月(ぎょうげつ)に連なり  
 行行(こうこう)涙は尽く 楚関(そかん)の西

現代和訳:

翡翠の楼閣に黄金の梯子で住んでいる後宮の宮妓もまつものである、門に佇み自分ひとり、嘆いて泣くのは誰であろう。夜は寒灯の下で暁の月の照らすまで泣きぬれ、さめざめと泣いて涙は尽きてしまうであろう、あの遠い楚の関所の西の方で妻は。

(<http://kanshi100x100.blog.fc2.com/blog-category-8.html>)

a)はJohann Wolfgang von Goetheヨーハン・ヴォルフガング・フォン・ゲーテの詩“Wandrer's Nachtlied”『旅人の夜の歌』の原作とその和訳、b)はその三重訳、c)は李白(701-762)の漢詩(内別赴徵 三首 其三)である。b)はドイツ語原典から和訳を経てフランス語へ重訳され、更にドイツ語へ重訳されたと言われているが、正確な出典は不明である。そのため実際の三重訳であるかどうかの真偽判定が非常に困難である。また特に1行目のPavillon aus Jade「翡翠の園亭」は、マクロ文脈の観点から見て、日本の詩には極めて稀な用法である。考えられる可能性としては、1) 三重訳である場合、マクロ文脈への配慮から、再度の文脈の適合化が行われていると見なすか、2) 三重訳ではなく、20世紀初頭のパロディーとして、偽翻訳が行われた、3)或いは、中国の漢詩、例えば李白の詩c)のドイツ語翻案である可能性も考えられる。李白の詩の場合、ドイツ語訳b)との間に表現様式の等価性が高いため、文脈の適合化を解釈する必要はないが、「留守中の妻を思う」という主題はゲーテの原詩にはないため、情報内容の等価或いは指示的等価に欠ける部分が多々見られる。

4. 結論に代えて - 範例的分析の結果と今後の課題 -

本論では、「翻訳」「訳学」の定義、基礎概念としての「等価性」「マクロ文脈」「文脈の適合化」について論じ、更に3つの訳例を示し、これらの諸概念に基づいて範例的分析を行った。この分析結果として、特に等価性の様々なタイプの優位性がテキスト型(text sort)に密接に対応していることが確認された。応用言語学において翻訳と訳学理論は、異文化コミュニケーション分野に位置付けられ、重要な研究領域を形成している。今後の研究課題として、1)今回の分析を補完する目的でのテキスト型と等価性のタイプとの関連付け、2) 目標言語テキスト(TL-text)への干渉、3)日本語教育における広義の「翻訳」の役割、に関する研究が要請される。

#### 参考文献

1. 小池生夫 他 編 (2003)『応用言語学事典』 研究社 東京 .
2. 日本語教育学会 編 (2005)『新版 日本語教育辞典』 大修館書店 東京.

3. Kautz, Ulich (2002) *Handbuch Didaktik des Übersetzens und Dolmetschens*. München, Iudicium. 643 S.
4. Koller, Werner (1992) *Einführung in die Übersetzungswissenschaft*. Heidelberg, Wiesbaden. 343 S.
5. Назаркевич, Х (2010) *Основи перекладознавства*. Grundkurs Translatologie: в 2 ч. Ч. 1: Теоретичний курс: навчальний посібник (гриф МОН) / Х. Назаркевич. - Видавничий центр ЛНУ імені Івана Франка: Львів, 2010. С.298.
6. Nida, Eugen (1964) *Toward a Science of Translating*. Brill.
7. Popov Ye. F., Balla M.I. (2006) *Comprehensive Ukrainian-English Dictionary*. Kyiv.
8. [http://de.wikipedia.org/wiki/Wandrer\\_Nachtlied](http://de.wikipedia.org/wiki/Wandrer_Nachtlied)
9. [http://en.wikipedia.org/wiki/Translation\\_studies](http://en.wikipedia.org/wiki/Translation_studies)
10. <http://kanshi100x100.blog.fc2.com/blog-category-8.html>
11. <http://www.ukrlib.com.ua/books/printthebook.php?id=119&bookid=11>
12. <http://xado.us/revitalizant/atomic-metal-conditioner-xado-highway>

**Шитанда Со,**

Львовский национальный университет имени Ивана Франко

## ТЕОРИЯ И ПРАКТИКА ПЕРЕВОДА В ПРИКЛАДНОЙ ЛИНГВИСТИКЕ

*Целью данного дослідження являються: 1) сравнительный анализ различных концепций переводоведения, например, «эквивалентность», «макроконтекст», «контекстуализация» с точки зрения прикладной лингвистики, 2) проверка теоретической обоснованности этих понятий согласно анализу некоторых конкретных случаев перевода. Впервые, мы обсудим различные определения, позиции и оценки теории переводоведения в области прикладной лингвистики и межкультурной коммуникации. В то же время, некоторые примеры из практики перевода будут представлено как объекты анализа на основе этих понятий перекладознавча. В заключение, я считаю, что роль, потенциал и предел перевода и транслатологии в прикладной лингвистики.*

**Ключевые слова:** *переводоведение, прикладная лингвистика, эквивалентность макроконтекст, контекстуализация.*

**Shitanda So,**

Ivan Franko National University of Lviv

*The purposes of this thesis are 1) a report on the various concepts of translatology, for example „equivalence“, „macrocontext“, „contextualization“ from the perspectives of the applied linguistics, 2) a verification of the theoretical validity of these concepts according to the analysis of some concrete cases of translation. First, we discuss various definitions, a position and an evaluation of the theory of the translatology in the domain of the applied linguistics and in the cross-cultural communication. At the same time, some examples of the practice of translation will be presented as objects of the analyses based on these translatalogical concepts. In conclusion, I consider the role, the potential and the limit of translation and translatology in the applied linguistics.*

**Keywords:** *translatology, applied linguistics, equivalence, macrocontext, contextualization.*